



令和7年度

和歌山県土砂災害啓発センター一年度報



和歌山県土砂災害啓発センター

はじめに

このたび、「令和7年度 和歌山県土砂災害啓発センター年度報」を刊行する運びとなりました。

本誌は、令和7年度に当センターが行った土砂災害に関する啓発活動、調査・研究及び発表実績等の成果を取りまとめたものです。

当センターは、平成23年9月の台風第12号による紀伊半島大水害を教訓に、甚大な被害を二度と繰り返さないよう、災害の記憶を後世に伝承するとともに、土砂災害に関する研究と啓発活動の拠点となることを目的として平成28年4月24日に開所いたしました。

令和7年度は、土砂災害の発生件数は例年と比べ少ない状況でしたが、気候変動に伴う豪雨が全国各地で発生した1年でした。この間、当センターでは県内外の自主防災組織をはじめ、行政機関、教育関係者、児童・生徒などを対象に、防災研修やイベント出展等を通じ、土砂災害への理解促進と防災意識の向上に努めてまいりました。

当センターは、まもなく開所から10年という節目を迎えます。これまでに蓄積した成果と経験を礎として、さらなる研鑽と工夫を重ね、引き続き、防災・減災に資する啓発活動や調査・研究に積極的に取り組んでまいります。土砂災害による犠牲者ゼロを目標に、職員一同、一層努力していく所存です。

今後とも、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

令和8年4月

所長 木村 洋郎

目 次

1	令和7年度の概要	1
1-1	主な出来事	1
1-2	来館者の状況	2
1-3	展示の概要	3
2	啓発活動	4
2-1	概要	4
2-2	防災研修	5
2-3	防災学習	7
2-4	防災学習の広がり	9
2-5	啓発活動推進・普及への取組	10
2-5-1	教員を対象にした研修	10
2-5-2	令和7年度和歌山県防災リーダー研修会	12
2-5-3	夏休み企画	13
2-5-4	関係機関と連携した防災学習	18
2-5-5	土砂災害防止月間	20
2-5-6	NIPPON 防災資産にかかる取組	25
2-5-7	イベントでの啓発	26
3	調査・研究	28
3-1	学会等での発表実績	28
3-2	令和7年度の研究概要	31
3-2-1	無人航空機の写真撮影による砂防堰堤の堆砂量の把握について	31
3-2-2	写真データの測量への応用について	31
3-3	現地調査	32
4	その他	33
4-1	砂防現地研修への参加	33
4-2	新宮市・東牟婁郡 災害伝承碑デジタルスタンプラリーの実施	34
5	参考資料	35
	参考資料① 和歌山県土砂災害啓発センターについて	35
	参考資料② 令和7年度団体研修一覧表	38
	参考資料③ 館内の展示について	42

1 令和7年度の概要

1-1 主な出来事

年月日	項目	備考
令和7年5月 28日～30日	令和7年度(公社)砂防学会研究発表会「長野大会」 (口頭発表1件) <長野県>	P.28 P.29
令和7年6月 1日～30日	土砂災害防止月間	P.20
令和7年6月10日	令和7年度(第43回)土砂災害防止「全国の集い」in宮城 <宮城県>	P.25
令和7年7月4日	けんさんぴん建設資材フェア及び学生との意見交換会 県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛	P.26
令和7年7月19日 ～8月31日	夏休み企画	P.12
令和7年7月29日、 31日、8月4日	令和7年度「小中学校教員向け防災学習(研修)(土砂災害・洪水災害)」	P.9 P.10
令和7年9月 10日～11日	第65回治山研究発表会及び第63回治山シンポジウム (口頭発表1件) <東京都>	P.28 P.29
令和7年9月11日	令和7年度近畿地方整備局研究発表会 (口頭発表1件) <大阪府>	P.28 P.30
令和7年10月 25日～26日	第57回(2025年度)地域安全学会研究発表会(秋季) (口頭発表1件) <静岡県>	P.28 P.30
令和7年10月26日	2025風土記まつり(出展) 和歌山県立紀伊風土記の丘	P.27
令和7年11月 14日～15日	ふれあい土木展2025(出展) <大阪府>	P.27
令和7年11月30日	由良町防災まつり(出展) 大引コミュニティセンター	P.28
令和8年3月19日～	新宮市・東牟婁郡 災害伝承碑デジタルスタンプラリー	P.34

1-2 来館者の状況

和歌山県土砂災害啓発センター（以下、「啓発センター」）の令和7年4月から令和8年3月末までの来館者数は12,916人であった。

来館者数は、5月のゴールデンウィーク、8月の夏休み、10・11月の紅葉シーズンに多かった。

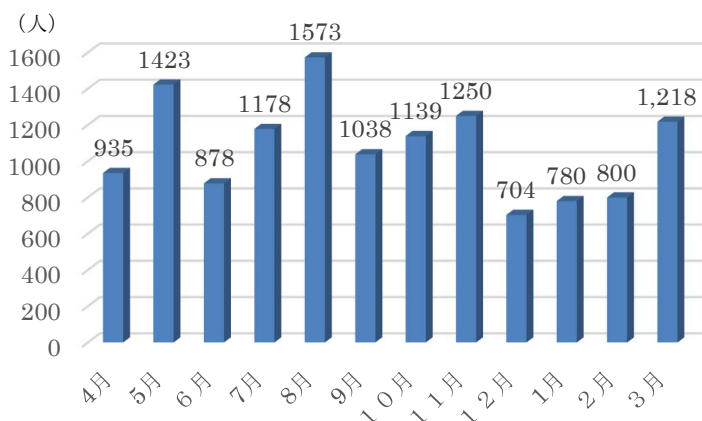
また、曜日ごとの来館者数については、日曜日が多かった。

年度別来館者数

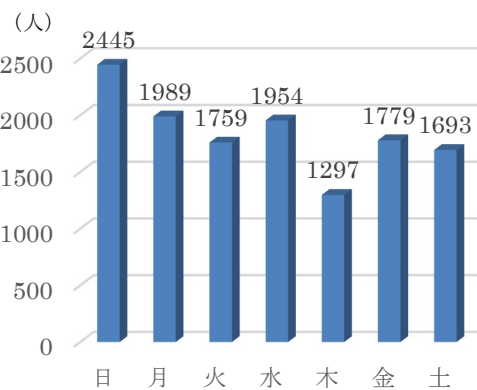
期間	来館者数（人）
平成28年4月から平成29年3月	11,167
平成29年4月から平成30年3月	11,998
平成30年4月から平成31年3月	19,579
平成31年4月から令和2年3月	19,575
令和2年4月から令和3年3月	10,058
令和3年4月から令和4年3月	11,971
令和4年4月から令和5年3月	12,829
令和5年4月から令和6年3月	17,931
令和6年4月から令和7年3月	15,583
令和7年4月から令和8年3月	12,916
計	143,607

平成28年度開館以来の年度別来館者数の推移は上表のとおりとなっており、本年度末までの来館者数は143,607人である。

令和7年度 月別来館者数



令和7年度 曜日別来館者数



1-3 展示の概要

展示スペースの中央には土石流模型装置がある。そして、壁には7枚の大型ディスプレイにおいて「平成23年紀伊半島大水害被災体験紙芝居」の動画と土砂災害を啓発する6枚のパネルを掲示している。

研修室では、研修等での使用時を除き、スクリーンとプロジェクターで複数の啓発動画を順次上映している。

また、啓発センター周辺の砂防えん堤も啓発の題材として活用している。

展示の詳細は、参考資料③に示す。



展示スペース



研修室



展示スペースの見学状況



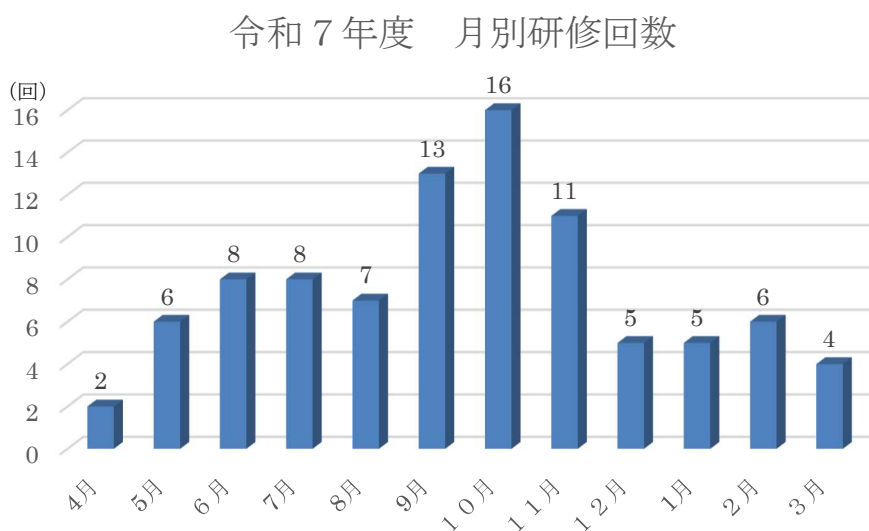
砂防えん堤の説明状況

2 啓発活動

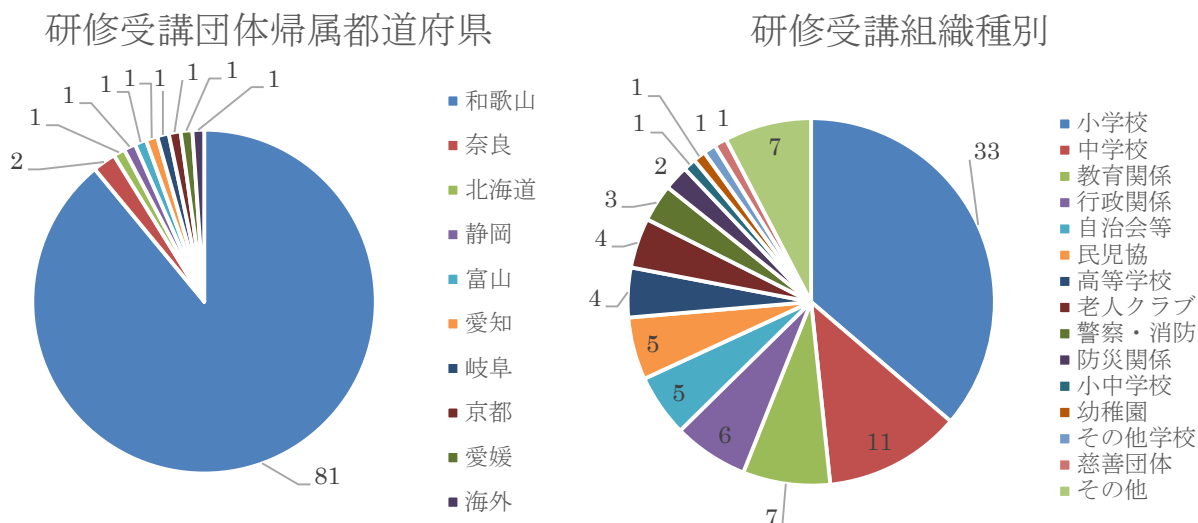
2-1 概要

令和7年度は、行政機関、自治会、小学校、中学校等、計91団体、2,340名を対象に、土砂災害に関する研修（防災研修及び防災学習）を実施した。研修は9月から11月にかけて回数が多い傾向であった。

受講団体の一覧は、参考資料②に示す。



また、研修受講団体の帰属都道府県及び組織種別を以下に示す。



受講団体としては県内の団体が多く、受講組織については小中学校等教育関係が半数以上を占めている。

2-2 防災研修

防災研修の内容は、担当者が事前に打合せを行い、平成23年紀伊半島大水害の説明に加えて土砂災害のメカニズムや災害から身を守るための知識などをベースに内容を調整して実施している。

令和7年度は、31団体735人を対象に防災研修を実施した。

啓発センターにおいては、県内外の自治体及び自主防災組織などの各種団体や海外からのJICA 青年研修等を対象とした研修を実施した。

また、和歌山県消防学校での講義や那智勝浦町井関地区への被災体験紙芝居の講演、その他県内各種団体への出前講座を実施した。

【 啓発センターでの研修 】



十津川村役場（奈良県）



JICA 青年研修

【 出前講座 】



和歌山県消防学校



那智勝浦町井関地区

＜主な研修項目＞

- ・土砂災害について
- ・紀伊半島大水害について
- ・深層崩壊について
- ・土砂災害から身を守るために
- ・過去の災害について
- ・土石流模型装置による実験
- ・紀伊半島大水害被災体験紙芝居 等

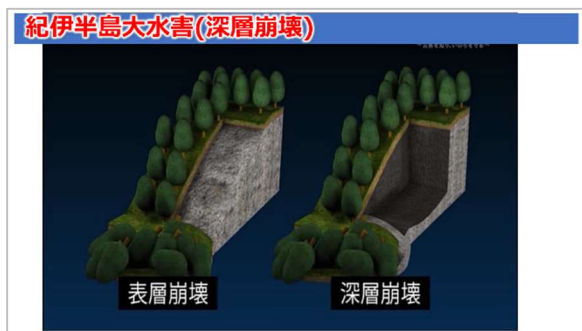
【 スライド例 】



紀伊半島大水害について



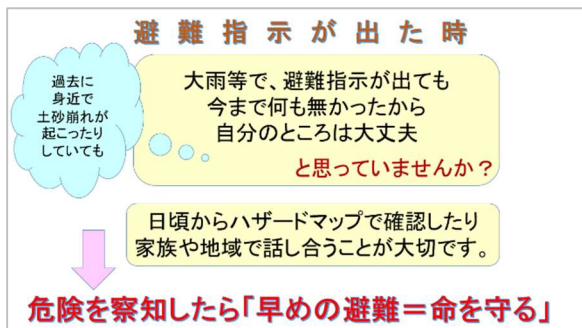
紀伊半島大水害について



深層崩壊について



土砂災害から身を守るために



土砂災害から身を守るために



土砂災害から身を守るために

2-3 防災学習

防災学習の実施にあたっては、各学校で担当教員と打合せを行い、児童の興味・関心を引き出すことを目的に地域の地形や文化、過去の災害を盛り込んだ内容としている。

さらに、「流れる水のはたらき」などの学習内容に関連した実験、ハザードマップを活用したグループワーク、学校周辺でのフィールドワークなど、実験・体験活動を多く取り入れ、発達段階に応じた学習メニューを提案して授業を組み立てて実施している。

令和7年度は、50回（小・中・高校と幼稚園）、1,315人の児童・生徒を対象に防災学習を実施した。

令和7年度は、実施回数が昨年度（34回）と比べ大きく増加するとともに、近隣の東牟婁地域だけでなく、紀北・紀中エリアの学校における実施回数が増え、県下全域へ防災学習の機会を広げている。

【 啓発センターでの防災学習 】



有田川町立石垣小学校



那智勝浦町立勝浦小学校

【 出前授業 】



田辺市立長野小学校



九度山町立九度山小学校



日高川町立美山中学校



県立日高高等学校附属中学校

<主な学習項目>

- ・ 地域の特徴と土地利用
- ・ 土砂災害について
- ・ 紀伊半島大水害について
- ・ 各種模型実験
- ・ ハザードマップを用いた演習
- ・ 土砂災害から身を守るために
- ・ 過去の災害について
- ・ 土石流模型装置による実験、現地見学
- ・ 紀伊半島大水害被災体験紙芝居 等

【 スライド例 】



地域の特徴と土地利用



土砂災害について



紀伊半島大水害について



土砂災害から身を守るために

2-4 防災学習の広がり

令和7年度は、学童保育等を対象とした防災学習を5回、98人に実施した。また、教員を対象とした研修等を5回、192人に実施するなど、小・中・高校及び幼稚園への防災学習だけではなく、その対象を広げている。

なお、教員を対象とした研修の詳細は、「2-5-1 教員を対象にした研修」及び「2-5-2 令和7年度和歌山県防災リーダー研修会」に記載する。

【 学童保育等 】



勝浦学童保育所くろしお



Go-Kuma-Kids

【 教員を対象とした研修等 】



令和7年度「小中学校教員向け防災学習(研修)(土砂災害・洪水災害)」



令和7年度和歌山県防災リーダー研修会

2-5 啓発活動推進・普及への取組

2-5-1 教員を対象にした研修

啓発センターでは、地元の小学校等と連携して、こどもたちが自ら考えて行動できることを目標に、土砂災害に関する学習活動に積極的に取り組んでいる。

啓発センターでは、防災学習の普及に向けて「教員と協働での防災学習」を進めており、次のステップとして「教員が主体的に実施する防災学習」を目指している。

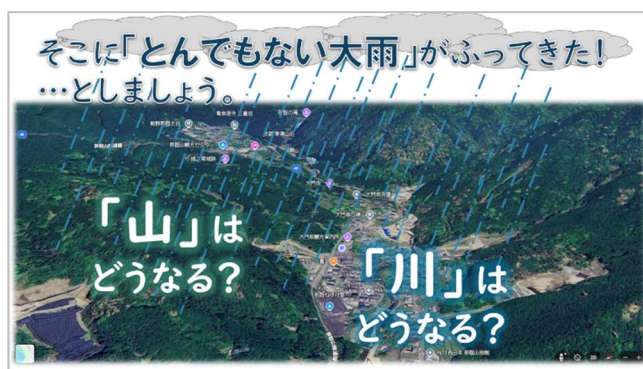
そのため、校長会や教育委員会等に周知を図るとともに、東牟婁管内の全ての小中学校に呼びかけ、令和7年度「小中学校教員向け防災学習（研修）（土砂災害・洪水災害）」を開催した。

研修内容は、小学生向けの模擬授業とその解説、情報提供、砂防えん堤の現地見学とした。

3日間で4講演開催し、計82名の教員に受講いただいた。

その結果、防災学習の実施依頼が増えるとともに、教材作成支援などの相談が多く寄せられている。

【 模擬授業 】



模擬授業の資料（抜粋）

【 補足・解説編 】

※内容をより理解したい方は、展示室の「夏休み特別展示パネル」をご覧ください。(～R7.8.31)

0. 模擬授業の構成

1. はじめに
 - ・地域の自然や文化の魅力
2. 大雨による災害(水害)
 - ・水害、大雨による災害と被害
3. 紀伊半島大水害
 - ・災害に起こった地域の状況
4. わたしたちにできること
 - ・学校避難、災害準備、備えるべきもの、天気予報のニュース
5. おわりに
 - ・災害はくりかえす
6. 研修全体のまとめ

大雨による災害でどんな被害が生じるのか?

水害では「山がくずれ」「川があふれる」だけでなく、人々の命や生活への悪影響(被害)が生じる。

⇒時代や町が変わっても、「災害時にこまること」には共通性がある。「災害に対して人々が備える」ことも共通

被害の分類

- 人的・物的被害: 人的被害(死傷)、物的被害(建物倒壊)
- 社会的被害: 交通機関の停止、ライフラインの断絶
- 経済的被害: 生産活動の停止、観光客の減少
- 精神的被害: 避難生活による不安、被害者への同情

平成23年: 都賀町(水害) 被害: 土砂崩壊、建物倒壊

令和28年: 都賀町(水害) 被害: 土砂崩壊、建物倒壊

令和29年: 都賀町(水害) 被害: 土砂崩壊、建物倒壊

3. 紀伊半島大水害

被害が大きくなった要因は?

- ・台風の速度は速く、中心は四国の方を通過。
- ⇒温った空気が絶えず供給され、長雨・大雨に。
- ※那智勝浦町で最も雨が強かったのは深夜～明け方。

台風の進路

四国に中心ノロノロ台風大雨ふらして北上す

台風の進路と大雨

降雨の状況(市野々観測所)

長雨のあとに急な豪雨に注意!

4. わたしたちにできること

4-1. 「早めの避難」はどうして大事?

- ・自然災害の力は大きく、スピードは速い。発生してから人間の力で立ち向かうのは不可能。
- ⇒できるのは「避難すること」だけ。
- ・早めに避難を開始することで「できること」「避難の選択肢」が増える。

また雨の降り始める前に... 早めの避難

遅い避難

紀伊半島大水害時の新宮市内

1 自分の家は安全か?

2 親せき・知人の家は安全か?

3 ひなん所へ!

補足・解説編の資料 (抜粋)

【 研修の様子 】



模擬授業



土石流模型装置による実験



鳴子谷川砂防えん堤説明



鳴子谷川砂防えん堤見学

2-5-2 令和7年度和歌山県防災リーダー研修会

令和7年5月28日（水）、和歌山県勤労福祉会館プラザホープで開催された和歌山県教育委員会主催の令和7年度和歌山県防災リーダー研修会において、啓発センター職員が講師として登壇し「土砂災害ってどう教えていますか?」と題し、教員に対する講義を行った。

②大雨による災害(水害)

②-1. 大雨がふるとどんな災害がおこるのか?

ポイント!
 > 豊かな自然が時として危険になること。そのきっかけが大雨であること。

「土砂災害」といふが怖い
 『洪水災害(こつずれさけ)の怖い』

②大雨による災害(水害)

②-1. 大雨がふるとどんな災害がおこるのか?

大雨による災害 → 水害

水害 → 土砂災害 → 土石流, がけくずれ, 地すべり

水害 → 洪水災害 → 冠水, 浸水

冠水 → 冠水しければこまめに! / 冠水しければこまめに!

③地域の災害

③-1. 平成23年紀伊半島大水害、各地域の被害

ポイント!
 > 被害の大きかった自治体では「災害記録誌」を発行していることもあります。

地域によっては「昭和28年水害(7.18水害)」の方が資料があるかもしれません。

③地域の災害

③-1. 平成23年紀伊半島大水害、各地域の被害

ポイント!
 平成23年(2011年)紀伊半島大水害とは...
 > 平成23年台風12号によってもたらされた大雨が原因で起こった土砂災害や洪水災害の総称。
 > 広い範囲で長雨・大雨となり、特に和歌山県南部を中心に大きな被害となった。

④身を守るための情報

④-1. 注意すべき場所の話(ハザードマップ)

ポイント!
 ①自分の家、学校等はどこか
 ②その周りにはどんな危険性があるか
 【土砂災害】土砂がくるともれない範囲(線)を確認
 【洪水災害】浸水した場合の深さ(色の濃淡)を確認
 ③避難できる場所はどこか
 ④自分の家から避難場所までどのようなルートを通るか

避難に関する情報って?

必ずしもこの順番で発表されるものではありません。危険を感じたら、発災を待つよりも避難することを優先してください!

避難の種類	避難の目的	避難の場所
5 避難所	避難所	避難所
4 避難所	避難所	避難所
3 避難所	避難所	避難所
2 避難所	避難所	避難所
1 避難所	避難所	避難所

リーダー研修会の資料(抜粋)

2-5-3 夏休み企画

多くの来館者が想定される夏休みに、平成29年度から夏休み企画を行っている。

令和7年度は「親子で学ぼう！土砂災害」をテーマに、特別展示・特別企画を開催した。

<特別展示>

6種類の動画パネルを展示し、冊子「土砂災害啓発センターの歩き方」を入口に置いて配布した。

期間は令和7年7月19日～8月31日で90冊を配布した。

夏休み企画
親子で学ぼう！
土砂災害

特別展示「親子で学ぼう！土砂災害」

2025
7/19(土)～8/31日
和歌山県
土砂災害啓発センター
9:00-17:00
参加無料

大雨で起こる災害って
なんだろう？

ハザードマップって
知ってる？

天気予報って
ちゃんと見てる？
<裏面も見てね！>

問い合わせはこちら
0735-29-7531

那智勝浦ICから
車で約7分
那智勝浦町
市野々3027-5

和歌山県土砂災害啓発センター



来館者



冊子「土砂災害啓発センターの歩き方」

パネル①

どしゃさいがいけいはつ
土砂災害啓発センターの歩き方

もくじ

- 1 土砂災害啓発センターの歩き方
- 2 大雨でおこる災害ってなんだ?
- 3 紀伊半島大水害ってなんだ?
- 4 気をつけるべき場所ってどこ?
- 5 「ひなん」に大切なことってなんだ?
- 6 土砂災害から身を守るものってなんだ?
- 7 「災害にあってどういうことだ?

てなんだ?

どんなものなの?

パネル2へGO!!

1 和歌山県ってどんなところだ?

令和7年夏休み特別展示
土砂災害啓発センターの歩き方

もくじ

1. 和歌山県ってどんなところだ?
2. 大雨でおこる災害ってなんだ?
3. 紀伊半島大水害ってなんだ?
4. 気をつけるべき場所ってどこ?
5. 「ひなん」に大切なことってなんだ?
6. 土砂災害から身を守るものってなんだ?

学年: 名前:

パネル②

パネル②

大雨でおこる災害ってなんだ?

大雨がふったら
「山がくずれ」「川があふれる」
っていうけど...

どんなものなの?
土石流 (どせきりゅう) **かけ崩れ** (がけくずれ) **地すべり** (じすべり)

3つのちがいを説明していくよ!

2 大雨でおこる災害ってなんだ?

知っておこう!!

- ☆大雨でくずれてしまった土砂によって、私たちの命や生活が危なくなることを「土砂災害」といいます。
- ☆大雨で川を流れる水の量が増えることによって、私たちの命や生活が危なくなることを「洪水災害」といいます。

自然のめぐみのうらがえし 大雨による災害

自然にめぐまれた地域だからこそ、災害とつきあっていかなければなりません。
大雨でくずれた土砂やあふれた水によって、私たちの命や生活が危なくなることを「土砂災害」や「洪水災害」といいます。
土や水がたきく動くだけでなく、私たちの生活が大変なことになります。そのため、災害について知っておくことはとても大切です。

【土石流】 大雨により土砂や石がたまり溜まって、一気に流れ出す様子

【かけ崩れ】 急な斜面の土砂が崩れて、川や池に流れ込む様子

【洪水】 大雨で川の水が増えすぎて、堤防が壊れて水が溢れ出す様子

「山がくずれ」「川があふれる」だけでなく、「私たちの命や生活が危なくなる」ことを覚えておこう!!

「大雨でおこる災害」について知ろう!! パネル2へGO!!

パネル③

パネル③

私たちが生まれるほんのむかしに、和歌山県でどんなことがおこったの?

紀伊半島大水害ってなんだ?

和歌山県はどのようにして大水害から立ち直ってきたの?

ノロノロ台風12号

平成23年8月25日に発生した台風12号は、とてつもなく早く和歌山県の西の四国地方を通って

3日12時 那智川流域

3日3時

3日0時

3 紀伊半島大水害ってなんだ?

知っておこう!!

- ☆平成23年台風12号による大雨で、和歌山県南部を中心に、土砂災害や洪水災害がたくさん起こりました。
- ☆大雨による土砂災害や洪水災害をあわせて「水害」とよびます。
- ☆多くの人々が被害にあったこの災害を「紀伊半島大水害」とよびます。

紀伊半島大水害 ノロノロ台風によって起こった大災害

平成23年台風12号による大雨で、和歌山県南部を中心に、土砂災害や洪水災害がたくさん起こりました。多くの人々が被害にあったこの災害を「紀伊半島大水害」とよびます。和歌山県では死者・行方不明者をあわせて61人という被害となりました。この大水害から10年以上が経ちました。大きな被害があったこと、また多くの人々の力によって町が復興・復興してきたことも忘れてはいけません。

【多くの家おぼろけの町】

【町おぼろけの洪水災害】

【多くの人がおぼろけの町】

【多くの人がおぼろけの町】

和歌山県だけでなく、奈良県や兵庫県でもいへんな被害があったんだ。だから「紀伊半島大水害」なんだよ!!

「紀伊半島大水害」について知ろう!! パネル3へGO!!

<特別企画>

土砂災害の理解を深めるため、「AR 防災学習砂場」、「流れる水のはたらき実験装置」や「土石流模型装置」による体験・実験イベントを開催した。

期間は令和7年8月9日～11日（3講演/日）、参加者は計34名であった。

特別企画
人気の実験を一度にやってみる!

8/9(土)~11(月)

※お申し込みは不要です。

1回目 10:00~11:00
2回目 13:30~14:30
3回目 15:00~16:00

色のつく砂場を体験してみよう♪

土砂災害について見て・触って楽しく学べます♪

水や土はどのように流れていくのかな?



企画説明



AR 防災学習砂場



流れる水のはたらき実験装置



土石流模型装置

<AR 防災学習砂場>

和歌山工業高等専門学校と共同開発した、砂山を作ってリアルタイムで等高線を映写する装置。

自由に尾根や谷の地形を作って、等高線がどのように描かれるかを見ることで、地図の判読を学習できる。

等高線地図に重ねられたハザードマップの理解ができる。

<流れる水のはたらき実験装置>

砂で川に見立てた溝を作って水を流し、増水した時の浸食の様子を観察する実験装置。

参加者が自由に川などの地形を作って体験することで、流れる水のはたらきの理解が深まる。

<土石流模型装置>

向かって左側の模型では、谷から町へと流れる土石流を再現し、土石流による被害の発生状況を確認する。右側の模型では、同様の土石流に対し砂防えん堤を配置しその効果を確認する。

左右の模型実験を比較することで、土石流の脅威と砂防えん堤の働きについて理解が深まる実験装置である。

2-5-4 関係機関と連携した防災学習

(1) 国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所との連携

田辺市立鮎川小学校5年生を対象として、啓発センターから熊野地区の地形の特徴や、紀伊半島大水害の際に発生した深層崩壊と天然ダムについて授業を行った。

その後現地に移動し、紀伊山系砂防事務所の職員が対策工の進捗状況やその効果について説明を行った。



説明（土砂災害啓発センター）



説明（紀伊山系砂防事務所）

(2) 和歌山県立南紀熊野ジオパークセンターとの連携

那智勝浦町立市野々小学校6年生を対象に、理科の単元「大地のつくりと変化」に合わせ、紀南地方の地質や地層と土砂災害についての防災学習を南紀熊野ジオパークセンターと合同で行った。



啓発センター内での防災学習



南紀熊野ジオパークセンター研究者との地層観察

(3) 市野々小学校「市小防災の日」

那智勝浦町立市野々小学校と啓発センターは、毎年小学校で行われている防災学習イベント「市小防災の日」で連携している。

10月3日に那智勝浦町立市野々小学校において、地域の方も参加する「市小防災の日」が開催された。

事前に教員から相談を受け、啓発センターが提供した資料等を活用した授業が実施された。

5・6年生は、この日のために啓発センターで事前に撮影した、自らが説明する土石流模型装置による実験の映像を披露した。また、砂防えん堤の見学体験についても発表を行った。



啓発センターが提供した資料等を活用して教員が授業をしている様子



自ら説明する土石流模型装置の実験動画を披露

令和6年度の土砂災害防止絵画展作品一覧

学 校 名	学年	タイトル	備 考
高野町立高野山小学校	3	みんなで協力 早めのヒナン	優秀賞
かつらぎ町立笠田小学校	2	はやくにげて！！	
かつらぎ町立笠田小学校	1	土砂崩れは怖い	
日高川町立川辺西小学校	5	土石流が来るぞ	
上富田町立市ノ瀬小学校	6	土砂くずれ	
田辺市立東陽中学校	2	早めの避難が命を救う	優秀賞
海南市立下津第一中学校	2	土砂に備えて	
田辺市立高雄中学校	2	思い出の家が壊される前に	
田辺市立高雄中学校	2	安全第一	
田辺市立高雄中学校	2	防ごう土砂災害	
那智勝浦町立那智中学校	1	危険はすぐそこに	

【 小学生の部優秀賞 】



みんなで協力 早めのヒナン

【 中学生の部優秀賞 】



早めの避難が命を救う

【 小学生の部 】



早くにげて！！



土砂崩れは怖い



土石流が来るぞ



土砂くずれ

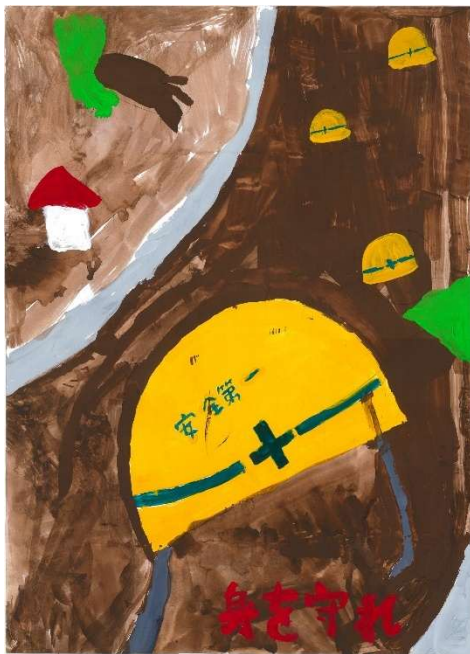
【 中学生の部 】



土砂に備えて



思い出の家が壊される前に



安全第一



防ごう土石災害



危険はすぐそこに

2-5-6 NIPPON 防災資産にかかる取組

令和7年度（第43回）土砂災害防止「全国の集い」in 宮城

令和7年6月10日（火）に仙台サンプラザホールにおいて開催された、「令和7年度（第43回）土砂災害防止「全国の集い」in 宮城」に参加した。

『行政・地域の一押し取組報告』と題したポスターセッションにおいて「NIPPON 防災資産」の優良認定にかかるポスターを展示し、来場者へ説明・PRを行った。



ポスターセッション展示状況

第2回「NIPPON 防災資産」の深化を考える会

令和8年3月12日（木）に広島市豪雨災害伝承館において開催された、「第2回「NIPPON 防災資産」の深化を考える会」に参加した。

「水災害」を対象とする認定団体と、関連する流域治水協議会の実務担当者が集まり、災害の自分事化につながる実践的な流域治水との連携方法について、意見交換を行った。



開催状況

2-5-7 イベントでの啓発

けんさんぴん建設資材フェア及び学生との意見交換会

令和7年7月4日（金）に県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛で開催された「けんさんぴん建設資材フェア及び学生との意見交換会」に、防災RPGの体験ブースを出展し、来場者に土砂災害防止の啓発と啓発センターの取り組みを説明した。



けんさんぴん建設資材フェア及び学生との意見交換会出展状況

紀の国防災人づくり塾

令和7年10月5日（日）に和歌山県勤労福祉会館プラザホープで開催された「紀の国防災人づくり塾」において、受講者（170人）を対象に土砂災害について講演を行った。



紀の国防災人づくり塾講演状況

2025風土記まつり

令和7年10月26日(日)に和歌山県立紀伊風土記の丘で開催された「2025風土記まつり」に出展し、AR防災学習砂場の体験をとおりて土砂災害について啓発を行った。



2025風土記まつり出展状況

ふれあい土木展2025

「ふれあい土木展」は、国土交通省近畿地方整備局が近畿技術事務所(大阪府枚方市)にて毎年開催する土木技術をテーマにした体験型イベントである。

令和7年度は、紀伊山系砂防事務所と共同で、令和7年11月14日(金)、15日(土)に開催された「ふれあい土木展2025」に出展した。

土砂災害3種類(がけ崩れ、土石流、地すべり)の映像や模型及びハザードマップを用いて、2日間で225名の方に土砂災害について啓発を行った。



ふれあい土木展2025出展状況

由良町防災まつり

令和7年11月30日（日）に由良町で開催された「由良町防災まつり」に出展し、AR 防災学習砂場と防災 RPG の体験をとおして土砂災害について啓発を行った。



由良町防災まつり出展状況

3 調査・研究

3-1 学会等での発表実績

啓発センターでは、土砂災害に関する調査・研究を行っており、研究成果を学会等で発表している。以下に令和7年度の研究発表の実績を示す。

発表実績一覧表

年月	学会名	題名	著者・共著者
令和7年5月	令和7年度（公社） 砂防学会研究発表会 「長野大会」	紀伊半島大水害時の住民の避難行動に関するヒアリング調査と伝承活動について	和歌山県土砂災害啓発センター 稲田健二 防災士（和歌山県東牟婁郡那智勝浦町在住） 久保榮子
令和7年9月	第65回治山研究発表会及び第63回治山シンポジウム	カメラをコンパスとして活用した現地調査の一考察	和歌山県土砂災害啓発センター 中村豊、木村洋郎
令和7年9月	令和7年度近畿地方整備局研究発表会	『ダイナミック「防災すごろく」』の開発とその実践について	和歌山県土砂災害啓発センター 嶋田圭悟
令和7年10月	第57回（2025年度）地域安全学会研究発表会（秋季）	プログラミング教育を取り入れた土砂災害防災教育の実践	和歌山県土砂災害啓発センター 岐山雄亮、筒井和男、有田貴洋、稲田健二 和歌山工業高等専門学校 谷口晃祥、辻原治、片嶋将人

紀伊半島大水害時の住民の避難行動に関するヒアリング調査と伝承活動について

学会名 令和7年度（公社）砂防学会研究発表会「長野大会」

発表日 5月29日（木）

場 所 若里市民文化ホール（長野県民文化会館）

<概要>

2011年9月の台風12号に伴う記録的豪雨により、紀伊半島では洪水・土砂災害が多数発生した。特に被害の大きかった那智川流域の井関地区における住民への聞き取りを基にした体験談の可視化・伝承は、災害を「自分ごと」として捉えさせ地域の防災力向上に有効である。



カメラをコンパスとして活用した現地調査の一考察

学会名 第65回治山研究発表会及び第63回治山シンポジウム

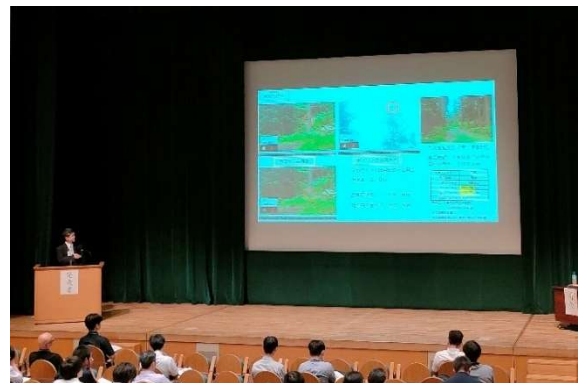
発表日 9月11日（木）

場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

<概要>

支障木調査省力化のため、樹高及び胸高直径を写真から計算する方法を検討した。

材積は幹材積表を利用するので、2cm括約の胸高直径とm単位の樹高がわかれば推定できる。昨年度は胸高直径について検討し、本年度は樹高について検討し、材積が推定できるデータを計算することができた。



『ダイナミック「防災すごろく」』の開発とその実践について

学会名 令和7年度近畿地方整備局研究発表会

発表日 9月11日(木)

場 所 大手前合同庁舎(大阪市)

<概要>

啓発センターでは、防災教育の「敷居の低さ」を重視し、和歌山工業高等専門学校と共同で、Excelに搭載されているVBAを使用して2つの防災すごろくを開発した。『土砂災害編』は自宅から避難所到達までのシナリオを、『避難所編』は避難所生活でのトラブル対応をゲーム形式で学び、いずれもクイズやミニゲームを通じて、知識と備えの重要性が習得できるものである。ふれあい土木展2023・2024での実績から、小学生から社会人まで幅広い参加者の好評を獲得するも、Excelの作動遅延や画面の小ささなどの改善点が確認された。

「防災すごろく～避難所編～」について

○「ふれあい土木展2024」(令和6年11月15日～16日)にて展示

- ・ 国土交通省近畿地方整備局近畿技術事務所にて開催
- ・ 小学生から社会人まで幅広い年齢層が体験
- ・ 非常持ち出し品のリストを複数作成し、選択してもらう方式を採用(右図)

○参加者の反応

- ・ ミニゲームやクイズを通じて盛り上がった
- ・ アンケートで13名から回答を得る

プログラミング教育を取り入れた土砂災害防災教育の実践

学会名 第57回(2025年度)地域安全学会研究発表会(秋季)

発表日 10月25日(土)

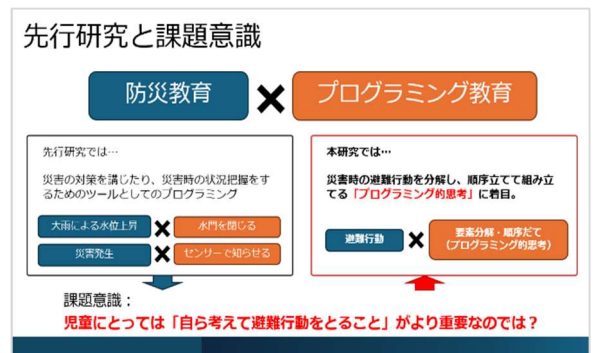
場 所 静岡県地震防災センター

<概要>

2020年の小学校学習指導要領の改訂に伴い、防災教育とプログラミング教育が必修となった。本研究では、災害時の避難行動とプログラミング的思考の親和性に着目し、プログラミング学習の要素を取り入れて、児童がゲーム感覚でロボットの動きをコントロールしながら、土砂災害について楽しく学習できる教材を開発した。

また、それを用いた実践授業及び事後アンケートを通じてその効果を計測した。

結果、児童は興味を持って学習に取り組み、土砂災害やプログラミングに対する理解も向上した。教員も教材や授業構成に込めた意図を十分に理解し、プログラミング的思考を防災のみならず実生活に応用できるという気づきを得ており、アイデアや取り組みの方向性について高い評価が得られた。また、取り組みを通して見えてきた課題についても考察した。



3-2 令和7年度の研究概要

3-2-1 無人航空機の写真撮影による砂防堰堤の堆砂量の把握について

令和7年度から砂防えん堤等が土石流を捕捉した場合、その機能復旧を図る緊急除石が災害復旧事業の対象に追加されており、当該事業を活用するにあたっては定期点検による堆砂量の現状把握と被災時の迅速な堆砂量の推計が必要となる。

そこで、無人航空機（空撮ドローン）を活用し、撮影した写真から堆砂量の効率的な推計手法の検討を進めている。



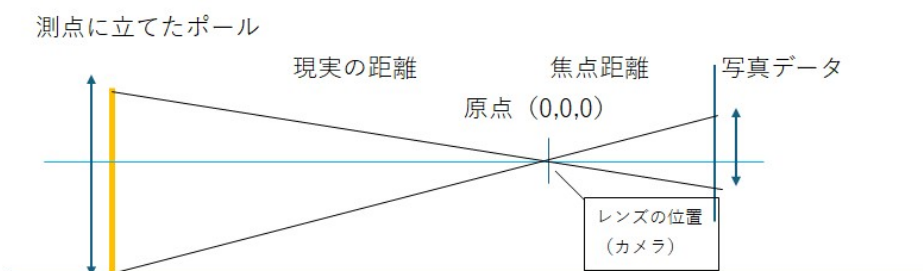
無人航空機（空撮ドローン）

3-2-2 写真データの測量への応用について

計画測量などにおいて、カメラを用いた効率的な測量手法を検討している。

鉛直に立てた測点のポールを撮影した1枚の写真からカメラとポールの位置関係（水平距離や高低距離）を計測することについて検討を進めている。

具体的には、レンズを原点として、焦点距離と写真データから、カメラ内部の仮想の3次元座標を想定し、ポールの長さとして写真データの値の比から、現実の空間の3次元データを計算し、カメラとポールの位置関係を算出する。



ポールの長さとして写真データの値の比から距離を測るイメージ図

3-3 現地調査

啓発センターの2階には大規模土砂災害対策技術センターが入所しており、和歌山県内で発生した土砂災害（地すべりに起因する道路災害も含む）について、県や市町村からの依頼に基づき実施する大規模土砂災害対策技術センター職員による現地調査に同行し調査を行っている。

本年度は、前述の調査事案が無かったが、県砂防課とともに確認してきた令和6年5月に発生した東牟婁郡古座川町平井地内の地すべり災害についての調査を行った。

令和7年4月の調査では、県砂防課と啓発センターの職員で調査を実施した。本調査を通じ、現地の事業進捗の把握と災害の規模・特性を確認することができた。

その後、推移を確認するため7月に再度、現地調査を実施した。本調査には、県砂防課、啓発センター及び大規模土砂災害対策技術センター職員に加えて、国立研究開発法人土木研究所の研究者も参加していただいた。土木研究所からは、現地での詳細な技術指導と今後の対策に関する専門的な提言を得ることができた。

年月	箇所名	事業実施主体	事業区分
令和7年 4月	東牟婁郡古座川町平井地内	和歌山県	地すべり
令和7年 7月	東牟婁郡古座川町平井地内	和歌山県	地すべり



古座川町平井地内

大規模土砂災害対策技術センター

紀伊半島に甚大な被害をもたらした平成23年9月の紀伊半島大水害から令和7年で14年が経ち、近畿地方整備局が和歌山県那智勝浦町に開設した大規模土砂災害対策技術センターでは、啓発センターを含め、関係機関と連携しながら、大規模土砂災害に関する調査・研究、対策技術の開発を進めている。

大規模土砂災害対策技術センター

(URL : <https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/center/index.html>)

4 その他

4-1 砂防現地研修への参加

令和7年10月15日、県土木技術職員の技術力向上を図るため、大規模土砂災害対策技術センターと紀伊山系砂防事務所のご協力のもと、国土交通省が各地方整備局等の職員を対象に例年実施している「国総研併任プログラム」に啓発センター職員を含む県技術職員が参加し、無人航空機を用いた溪流調査、砂防えん堤空き容量調査等の現地研修に参加した。



国総研併任プログラム座学の様子



水路断面を計測する様子

4-2 新宮市・東牟婁郡 災害伝承碑デジタルスタンプラリーの実施

スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み込んでアプリケーションにアクセスし、地図画面に示す17箇所の災害伝承碑に近づくことでスタンプを集める。6個以上のスタンプを集めた参加者に、啓発センターにてオリジナル缶バッジをプレゼントするイベントである。

本イベントを通じ、災害伝承碑の周知及び過去の災害の記録である災害伝承碑を探し、過去の教訓に思いをはせることで、土砂災害等への防災意識の向上を図ることを目的としている。

なお、アプリケーションの開発にあたっては、和歌山工業高等専門学校の辻原治名誉教授にご協力をいただいた。

(実施期間：令和8年3月19日(木)～5月31日(日))

新宮市・東牟婁郡 災害伝承碑 デジタルスタンプラリー

缶バッジは先着100名様限定!

缶バッジをプレゼント

スタンプラリー実施期間 R8.3.19(木) - 5.31(日)

参加方法

Step.1 上の二次元コードを読み込もう!

Step.2 新宮市・東牟婁郡の各スポットを巡ろう!

Step.3 各スポットでチェックインしよう!

Step.4 スタンプを獲得!

①上記の二次元コードまたは次のURLから (<https://wakayama-sabo.sakura.ne.jp/dgstr5/>) サイトへアクセスしてください。

②地図上のグリーンリーフ(緑の葉)は、災害伝承碑の場所を表しています。いずれかをタップすると、災害伝承碑の写真と名称が表示されます。また、現在地からの距離も表示されます。

③近くまで行けばチェックインが可能となり、デジタルスタンプを獲得できます。

④獲得したデジタルスタンプは、スタンプ帳で確認できます。

※注意点※

- スマートフォンの位置情報へのアクセスを可能にしてください。
- 使用するスマートフォンやブラウザを変更すると、それまでに獲得したデジタルスタンプは反映されません。

特典

スタンプを6個以上獲得した方には、先着100名様にオリジナル缶バッジをプレゼントします! 土砂災害啓発センターを訪問し、スタンプ帳を窓口で提示してください。



地図画面

問い合わせはこちら 那智勝浦町市野々3027-6
和歌山県土砂災害啓発センター ☎0735-29-7531

5 参考資料

参考資料①

1 和歌山県土砂災害啓発センターについて

概要

名称 和歌山県土砂災害啓発センター

開所 平成28年4月24日

事業内容

土砂災害に対する調査・研究及び啓発を行う。

職員構成

令和7年度

採用区分	土木職	林学職	会計年度任用職員	那智勝浦町職員(会計年度任用職員)	計
所長	1	0	0	0	1
主査	1	0	0	0	1
副主査	1	1	0	0	2
土砂災害啓発施設管理員	0	0	1	0	1
事務員	0	0	0	2	2
計	3	1	1	2	7

職員名簿

令和7年度

	氏名
所長	木村 洋郎
主査	岐山 雄亮
副主査	嶋田 圭悟
副主査	中村 豊
土砂災害啓発施設管理員	土岐 恭子 (宮原 芳宏) ※ ¹
事務員(平日)	山本 瑠依 ※ ²
事務員(土・日・祝)	濱 龍児 ※ ²

※¹会計年度任用職員 ※²那智勝浦町職員(会計年度任用職員)

2 施設

所在地 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町大字市野々3027-6

○木造2階建て

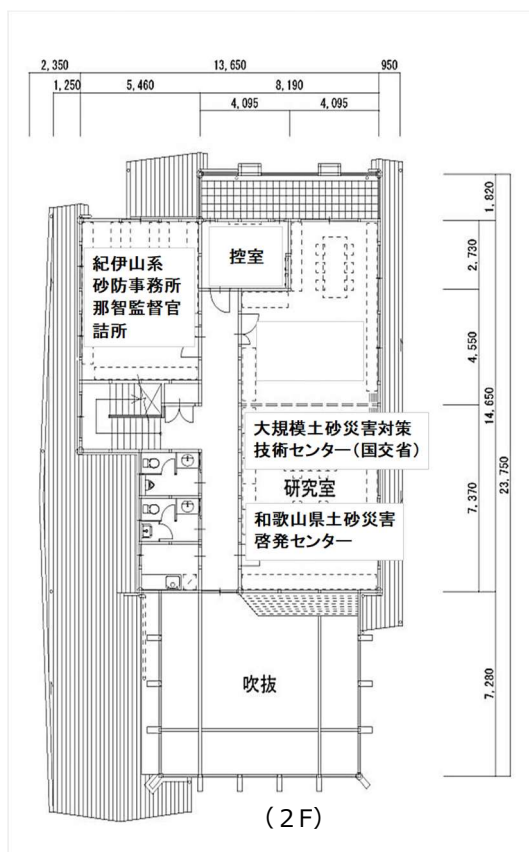
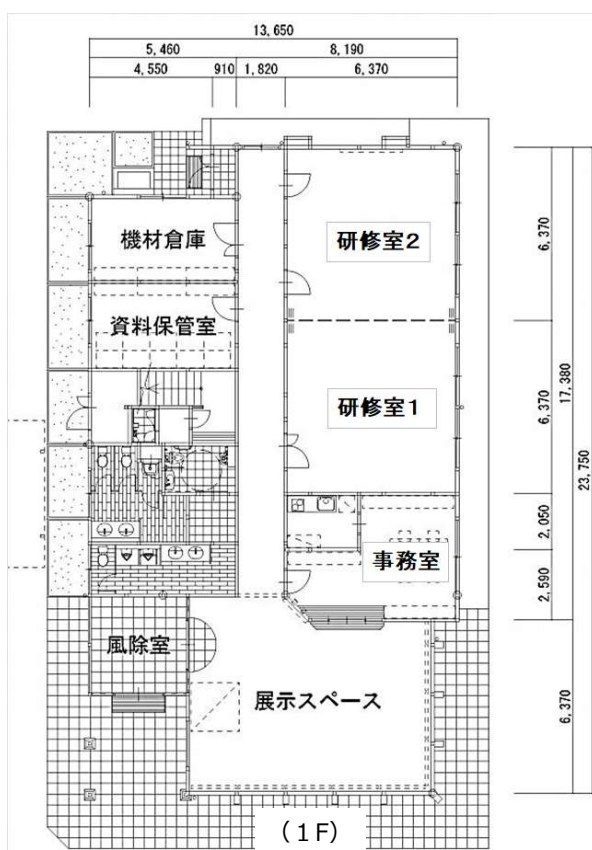
○延床面積 492 m²

1階 展示スペース 61.69 m²、事務室 23.41 m²、研修室1 40.58 m²、
研修室2 40.58 m²、資料保管室 17.39 m²

2階 研究室 87.11 m²、控室 11.18 m²

紀伊山系砂防事務所那智勝浦監督官詰所 34.78 m²

○総事業費 約2億4000万円



展示スペース



研修室 1, 2

3 開館時間・休館日

- 開館時間 9時から12時
 13時から17時
- 休館日 年末年始（原則として年末年始以外は開館）
 ※ 大雨警報等が発表された場合休館となります。

4 開所までの沿革

平成23年 9月	紀伊半島大水害発生
平成23年10月14日	全国治水砂防協会（綿貫会長・二階理事）が那智勝浦町を訪問
平成23年12月	県議会が「国立砂防防災研究所（仮称）の設置」を含む意見書を国に提出
〃	和歌山県自由民主党県議団が砂防事業推進議員連盟を結成
平成24年6月 ～平成25年12月	県や議員連盟、市町村が「国立砂防防災研究所（仮称）の設置」を要望
平成26年4月1日	国土交通省が近畿地方整備局に「大規模土砂災害対策技術センター」を設置
〃	県砂防課付けで職員（土木職1名）が技術センターに派遣される（那智勝浦町水道事務所内）
平成26年7月21日	「大規模土砂災害対策研究機構」設立シンポジウムを那智勝浦町で開催
平成27年4月1日	県砂防課付けで職員（土木職1名）及び森林整備課付けで職員（林学職1名）が追加派遣される
平成27年5月2日	「和歌山県土砂災害啓発センター」起工式
平成28年4月1日	「和歌山県土砂災害啓発センター」の組織が立ち上がる
平成28年4月24日	「大規模土砂災害対策技術センター入所・和歌山県土砂災害啓発センター竣工」記念式典・開所

参考資料②

令和7年度団体研修一覧表

回	開催日	団体名	学年	人数	都道府県	研修時間	研修会場
1	4月4日	新宮信用金庫		5	和歌山	1:00	啓発センター
2	4月18日	西日本旅客鉄道労働組合		20	和歌山	0:35	啓発センター
3	5月13日	砺波市建設業協会		25	富山	1:00	啓発センター
4	5月19日	石野地区区長会		25	愛知	1:00	啓発センター
5	5月20日	那智勝浦町立下里小学校	4年生	14	和歌山	1:30	啓発センター
6	5月21日	田辺市南部センター		15	和歌山	1:00	啓発センター
7	5月28日	和歌山県教育委員会		110	和歌山	0:50	和歌山市プラザホープ
8	5月30日	愛媛県四国中央市消防本部		12	愛媛	1:30	啓発センター
9	6月3日	古座川町立明神中学校	2, 3年生	13	和歌山	2:00	啓発センター
10	6月4日	那智勝浦町立下里小学校	4年生	15	和歌山	0:45	那智勝浦町立下里小学校
11	6月6日	日高川町立美山中学校	全学年	28	和歌山	1:50	日高川町立美山中学校
12	6月12日	田辺市立鮎川小学校	5年生	10	和歌山	1:30	鮎川小学校・熊野地区災害現場
13	6月15日	田辺市立田辺第一小学校	3, 4年生	39	和歌山	0:45	田辺市立田辺第一小学校
14	6月16日	県立日高高等学校附属中学校	3年生	37	和歌山	1:50	県立日高高校附属中学校
15	6月19日	蘇原CWV会		20	岐阜	1:00	啓発センター
16	6月27日	日高川町立川辺東小学校	6年生	25	和歌山	1:40	日高町立川辺東小学校
17	7月1日	日高川町立早蘇中学校	1年生	10	和歌山	1:50	日高川町立早蘇中学校
18	7月6日	大仁地区民生委員児童委員協議会		29	静岡	1:00	啓発センター
19	7月16日	十津川村役場		8	奈良	1:00	啓発センター
20	7月18日	三山木普賢寺民生児童委員協議会		14	京都	1:30	啓発センター
21	7月21日	崇教真光新宮青少年		4	和歌山	1:00	啓発センター
22	7月29日	那智勝浦町立勝浦小学校教員		4	和歌山	2:15	啓発センター
23	7月29日	那智勝浦町立小中学校及び北山村立小中学校教員		53	和歌山	2:45	啓発センター
24	7月31日	那智勝浦町立小中学校教員		14	和歌山	2:00	啓発センター
25	8月1日	和歌山県消防学校初任科		58	和歌山	2:45	啓発センター
26	8月4日	那智勝浦町立下里中学校教員		11	和歌山	2:15	和歌山県消防学校
27	8月8日	勝浦学童保育所くろしお		30	和歌山	1:00	啓発センター

回	開催日	団体名	学年	人数	都道府県	研修時間	研修会場
28	8月27日	新宮警察署		61	和歌山	1:00	新宮警察署
29	8月28日	中辺路学童保育所		20	和歌山	1:00	田辺市立中辺路小学校
30	8月28日	国土交通省近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所		9	奈良	0:50	啓発センター
31	8月29日	特定非営利活動法人 Go-Kuma-Kids		40	和歌山	1:00	啓発センター
32	9月2日	印南町立稲原中学校	全学年	32	和歌山	1:50	印南町立稲原中学校
33	9月6日	由良町畑区自治会		28	和歌山	1:30	畑農業会館
34	9月7日	海南市立下津第一中学校	全学年	60	和歌山	1:30	海南市交流センター
35	9月8日	国土交通省近畿地方整備局 紀南河川国道事務所		3	和歌山	1:00	啓発センター
36	9月16日	那智勝浦町立市野々小学校	5, 6年生	5	和歌山	1:40	啓発センター
37	9月17日	有田地方交通指導員会連絡協議会		15	和歌山	1:00	啓発センター
38	9月18日	県立貴志川高等学校	2年生	22	和歌山	1:40	県立貴志川高等学校
39	9月18日	田辺市立上山路小学校	3, 4年生	7	和歌山	5:05	田辺市立上山路小学校
40	9月19日	那智勝浦町立市野々小学校	3, 4年生	11	和歌山	0:45	那智勝浦町立市野々小学校
41	9月19日	県立海南高等学校美里分校	全学年	16	和歌山	1:50	県立海南高等学校美里分校
42	9月26日	那智勝浦町立下里小学校	6年生	10	和歌山	4:55	那智勝浦町立下里小学校
43	9月30日	那智勝浦町立勝浦小学校	4年生	25	和歌山	2:00	啓発センター
44	9月30日	那智勝浦町立下里小学校	全学年	62	和歌山	1:00	那智勝浦町立下里小学校
45	10月2日	新宮市立熊野川小学校	3, 4年生	6	和歌山	1:35	新宮市立熊野川小学校
46	10月6日	那智勝浦町立勝浦小学校	4年生	30	和歌山	1:00	那智勝浦町立勝浦小学校
47	10月7日	太地町立太地小学校	4年生	17	和歌山	1:15	啓発センター
48	10月9日	和歌山県総務部管理局人事課		22	和歌山	0:50	啓発センター
49	10月10日	那智勝浦町立市野々小学校	5年生	1	和歌山	0:45	啓発センター
50	10月11日	新宮市くろしお児童館		4	和歌山	1:00	啓発センター
51	10月16日	県立みくまの支援学校	高等部	4	和歌山	0:45	啓発センター
52	10月16日	印南町役場総務課		80	和歌山	2:00	印南町防災福祉センター
53	10月17日	田辺市立新庄第二小学校	5年生	36	和歌山	0:45	田辺市立新庄第二小学校
54	10月20日	田辺市立大坊小学校	全学年	19	和歌山	1:35	田辺市立大坊小学校
55	10月21日	那智勝浦町立太田小学校	3, 4年生	7	和歌山	1:35	那智勝浦町立太田小学校

回	開催日	団体名	学年	人数	都道府県	研修時間	研修会場
56	10月22日	那智勝浦町立下里小学校	5年生	11	和歌山	1:40	啓発センター
57	10月28日	田辺市立会津小学校	4年生	82	和歌山	1:35	田辺市立会津小学校
58	10月29日	田辺市立長野小学校	5, 6年生	7	和歌山	1:35	田辺市立長野小学校
59	10月30日	橋本市立紀見北中学校	全学年	161	和歌山	4:40	橋本市立紀見北中学校
60	10月31日	那智勝浦町立色川小学校	5, 6年生	5	和歌山	2:00	啓発センター
61	11月5日	広川町立津木小学校	1, 2年生	5	和歌山	0:45	広川町立津木小学校
62	11月5日	北山村立北山小・中学校	小学生2-6年 中学生1-3年	35	和歌山	0:30	北山村立北山小学校
63	11月6日	那智勝浦町立色川中学校	全学年	11	和歌山	1:45	那智勝浦町立色川中学校
64	11月10日	那智勝浦町立太田小学校	全学年	18	和歌山	0:45	那智勝浦町立太田小学校
65	11月11日	那智勝浦町立宇久井小学校	5年生	29	和歌山	1:30	啓発センター
66	11月13日	那智勝浦町立太田小学校	3, 4年生	7	和歌山	1:00	啓発センター
67	11月13日	新宮市立丹鶴幼稚園	ほし組	9	和歌山	0:45	新宮市立丹鶴幼稚園
68	11月19日	那智勝浦町立市野々小学校	6年生	3	和歌山	1:20	啓発センター
69	11月25日	九度山町立九度山小学校	5, 6年生	33	和歌山	1:40	九度山町立九度山小学校
70	11月27日	紀の川市立荒川中学校	1年生	43	和歌山	2:00	紀の川市立荒川中学校
71	11月28日	那智勝浦町立下里小学校	6年生	9	和歌山	1:40	啓発センター
72	12月2日	岩出市老人クラブ連合会		36	和歌山	1:00	啓発センター
73	12月5日	県立星林高等学校	1年生	80	和歌山	1:40	和歌山県立星林高等学校
74	12月6日	那智勝浦町井関地区		24	和歌山	1:30	井関倶楽部集会場
75	12月8日	新宮食生活改善推進協議会交流会		29	和歌山	1:00	東牟婁総合庁舎
76	12月14日	新宮市立光洋中学校	2年生	58	和歌山	1:50	新宮市立光洋中学校
77	1月21日	熊野川地区民生委員児童委員協議会		9	和歌山	1:30	啓発センター
78	1月26日	日高町自主防災組織連絡協議会		18	和歌山	1:30	啓発センター
79	1月29日	JICA 青年研修		8	海外	1:30	啓発センター
80	1月27日	那智勝浦町立宇久井小学校	4年生	28	和歌山	2:30	那智勝浦町立宇久井小学校
81	1月31日	神倉老人憩の家		60	和歌山	1:35	神倉老人憩の家
82	2月3日	北海道美瑛町役場		15	北海道	2:15	啓発センター
83	2月20日	みなべ町自主防災会連絡協議会		6	和歌山	1:00	啓発センター
84	2月22日	和歌山市消防団宮北分団		11	和歌山	1:30	啓発センター

回	開催日	団体名	学年	人数	都道府県	研修時間	研修会場
85	2月24日	老人クラブ健楽会		20	和歌山	1:00	新宮市 井の沢隣保館
86	2月24日	那智勝浦町立宇久井小学校	3年生	23	和歌山	1:00	啓発センター
87	2月25日	田辺市立東陽中学校	1年生	70	和歌山	1:30	東部公民館
88	3月2日	田辺市立中山路小学校	3, 4年生	8	和歌山	0:50	田辺市立中山路小学校
89	3月6日	有田川町立石垣小学校	3, 4年生	19	和歌山	1:35	啓発センター
90	3月17日	那智勝浦町社協太田地区福祉委員会		31	和歌山	1:00	啓発センター
91	3月21日	第2回 JRC・青年赤十字奉仕団		19	和歌山	1:00	啓発センター

参考資料③

館内の展示について

風除室・展示スペース

- ① 那智川流域の地形模型
- ② 啓発センター紹介動画
- ③ 被災体験紙芝居上映

【被災体験紙芝居の概要】

夫婦と娘の3人家族が洪水に見舞われ、最初は3人で家のトユに捕まっていたが耐えきれず、隣の建物に移ろうと濁流に飛び込み流された。その後母親はフェンスに捕まり、娘は屋根に登って九死に一生を得たが、父親は遺体で発見された。



那智川の様子を見に行く場面

濁流に流されないよう必死に家のトユに捕まっている場面



濁流に飛び込み流された場面



濁流に流されたが舗道のフェンスで助かった場面



娘の無事を確認し涙を流す場面

④ デジタルサイネージ

タッチパネル多言語対応
(日・英・中)

「和歌山県の地形・気候・地質」

「繰り返される土砂災害、紀伊半島大水害」

「紀伊半島大水害による被災状況」

「土砂災害とは」

「土砂災害を防ぐための対策」

「台風や大雨の際は、土砂災害が発生しやすくなっているため注意が必要です」

⑤ 土石流模型装置 (国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所より貸与)

⑥ 防災RPG体験コーナー

⑦ 防災学習感想文

⑧ 修景工模型 (井筒建設株式会社寄贈)



① 那智川流域の地形模型



② 啓発センター紹介動画



③ 被災体験紙芝居上映



④ 「和歌山県の地形・気候・地質」



④ 「繰り返される土砂災害」「紀伊半島大水害」



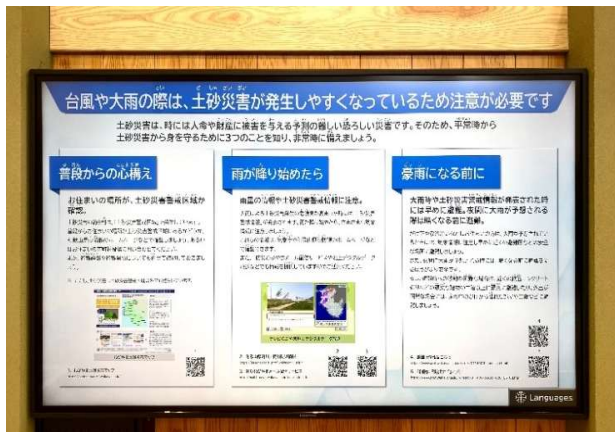
④ 「紀伊半島大水害による被災状況」



④「土砂災害とは」



④「土砂災害を防ぐための対策」



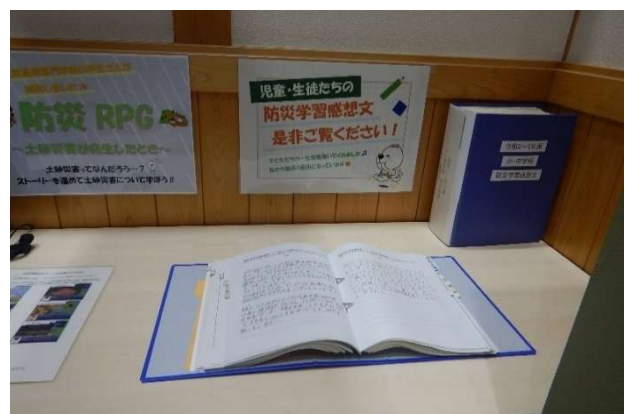
④「台風や大雨の際は、土砂災害が発生しやすくなっているため注意が必要です」



⑤土石流模型装置



⑥防災 RPG 体験コーナー



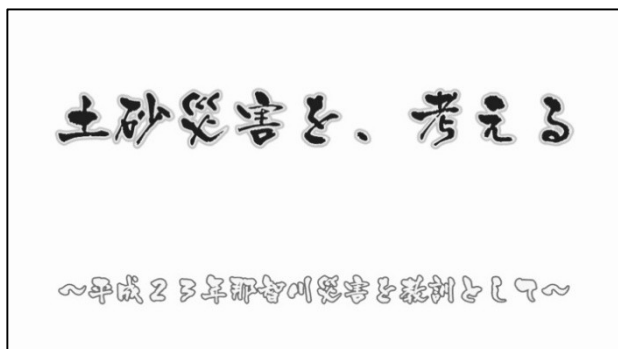
⑦防災学習感想文



⑧ 修景工模型

研修室

研修室は、研修に使用するほか、研修の無い時は啓発動画6本「土砂災害を、考える」、「紀伊半島大水害豪雨」、「深層崩壊 発生メカニズムを探る!」、「土砂災害啓発センターってどんなところ?」、「後世に伝える災害の記憶-西牟婁編-」「防災減災コンテスト 防災学習砂場」を順次上映している。

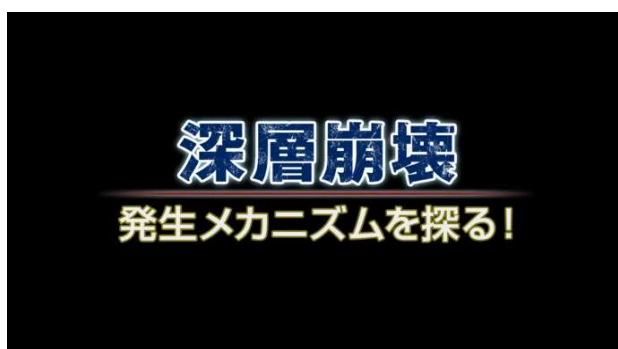


土砂災害を、考える



紀伊半島大水害 豪雨

~平成23年台風12号、新宮市映像の記録~



深層崩壊 発生メカニズムを探る!



きいちゃんと学ぶ

土砂災害啓発センターってどんなところ?



きいちゃんと学ぶ

後世へ伝える災害の記憶-西牟婁編-



防災減災コンテスト 防災学習砂場

和歌山工業高等専門学校

廊下展示

絵画「市野々の宝」「笑顔最高 市小」

この2枚の絵画は、平成23年9月の紀伊半島大水害で大きな被害を受けた那智勝浦町立市野々小学校の児童たちによって、災害のあった翌年に描かれた。「公共のオープンな場でみんなに見てもらいたい」という市野々小学校の依頼を受け、啓発センターにおいて展示を行っている。



「市野々の宝」

題名 「市野々の宝」

被災から一年のメモリアルと、市野々小学校のお守りとして、五人でこの絵をかきました。

絵には、学校、三重のとう、那智の滝、やたがらすと、市野々の宝をえがきました。特に、大きな女の子が学校を持っている絵は、一番の宝、学校を大切に守るということを思いながらかきました。

初めての大きい絵は、大変でした。だけど、五人での共同作業は、アイデアがたくさん出てくるので、とてもいい絵がかけました。

絵は、市野々小学校にかざられるので、みんなに見てもらいたいです。そして、大切に思っしてほしいなと思います。

平成二十四年九月三日



「笑顔最高 市小」

題名 「笑顔最高 市小」

被災して学校が壊れたり、大切な人たちの命が失われました。この絵は、もう災害がないようにかいたお守りです。

みんなで相談して「けいと君」の絵をかくことにしました。学校もかいて、人もたくさんかいたのは、いつまでも元気でいられるようにと考えたからです。やたがらすは、市野々小学校を守ってくれているという意味です。けいと君が学校や人を見ているようにしました。けいと君にずっとずっと見守っていてほしいからです。

心をこめて下絵をかいたり、色をぬったり、一生けんめいがんばったと思います。けいと君に喜んでもらいたいです。

この絵は、学校が直ったら、ずっとかざってほしいです。けいと君にみんなの思いがきつと伝わると思っています。

平成二十四年九月三日